The Symphony Hall に、YAMAHAのCFXを導入

ザ・シンフォニーホールでは従来の二台のスタインウェイとヤマハ コンサートグランドピアノCFⅢSに加えて、このたび、ヤマハのフルコンサートグランドピアノCFXを導入しました。1世紀以上にわたるヤマハのピアノづくりのすべてを注ぎ込んだ集大成とも言える最高峰ピアノです。日本を代表するピアニストで、ヤマハピアノの愛用者でもある清水和音氏に依頼し、4台のピアノの中からよりザ・シンフォニーホールの響きに合う豊かな音を持つ1台を選定していただきました。ピアニストの方にもより表現の選択肢が広がり、理想的な演奏環境を整えています。ホールのすみずみにまで響き渡る、ブリリアントな美しい音色をお楽しみください。

YAMAHA CFX

○高さ 103cm／間口 160 cm／奥行き 275 cm／重量 501kg　○88鍵(7オクターブ 1/4)
○漆黒／鏡面艶出し塗装　大屋根上面のみ半艶仕上げ　○CFX専用ハンマーアクション使用
○アリコート方式　○鍵盤:アイボライト(白鍵)・黒檀(黒鍵)　○3本ペダル(ソステヌートペダル付)
○鍵盤蓋:ソフトランディング機構　○突上棒ストッパー　○大型ダブルキャスター

STEINWAY & SONS D-274

YAMAHA CFⅢS

ヤマハのCFXをピアニストの清水和音氏が選定。

ホールの歴史や魅力を物語るスポットを紹介　The Symphony Gallery

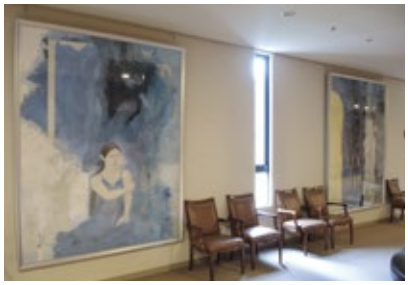
独特の世界観をもつ二人の作家による絵画を2階と4階の客席外の休憩所に展示。開演前や休憩中などに、ぜひご鑑賞ください。

2階に展示するのは、兵庫県西宮市に生まれた広瀬三都子の絵画作品。広瀬は武蔵野美術大学造形学部日本画コースを卒業後、フラワーデザイナーとして活躍。やがて、花の立体造形の世界から日本画の平面の世界へ移行し、日本画家の那須勝哉・岡村倫行氏に指導を受ける。2006年、日本画「葉っぱの声が聞こえる」が、新日美展(30回記念)を受賞するなど、多くの受賞歴を誇ります。ザ・シンフォニーホールに展示する「ミ・ツ・メ・ル」は、日々の葛藤や不安、喜びなど、彼女自身の内面を未来に向けて見つめた作品。また、何気ない夕暮れの一コマを描いた「ユ・ウ・グ・レ・ド・キ・ニ」は、作者いわく「さしあたって何もないのに、ふと淋しさがよぎる」心境が表現されています。

4階には、昭和から平成時代にかけて活躍した洋画家の西村元三朗の絵画を展示。神戸で生まれ育った西村は、1942年、小磯良平のアトリエを訪ねて素描の基礎を学び、日本大学専門部芸術科に入学。卒業後は新制作派協会の展覧会を主たる発表の場として活躍しました。彼の作品は次第にシュールレアリスム的傾向を帯び、建造物の一部分を思わせる様々な形の物体や、ダイナミックな運動を生じさせる世界など、宇宙的巨大空間ともいうべき未知の風景を描き出しています。

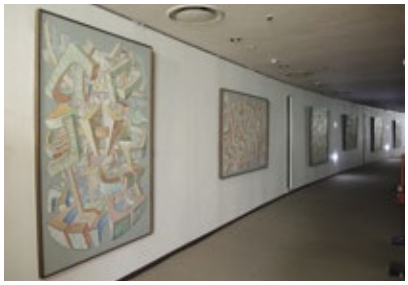
彼らの描く独自の世界観を、開演前や休憩中に、ぜひご堪能ください。

2階　広瀬三都子（ひろせ みつこ） 作品



(左)「ユ・ウ・グ・レ・ド・キ・ニ」2013年「きのうとあすの対話展Ⅱ」日本美術家連盟 出展作（素材:雪肌麻紙・墨・岩絵の具）(右)「ミ・ツ・メ・ル」2011年 第43回「日展」初入選作（素材:雪肌麻紙・墨・銀箔・岩絵の具）

4階　西村元三朗（にしむら もとさぶろう） 作品



(手前より)
「峠」1989年（素材:油彩・キャンバス）
「拓壁」1990年（素材:油彩・キャンバス）